

少年  
新詩

## 口笛

耳を澄ませば口笛が

門のあたりで呼んでゐる

愛弟の吹いたくちぶえに

あまりよく似た恋しさに

急いで飛んで出は出たが

誰も居ない夕日かけ

西もひがしも白い路

ほつつり私の影法師

淋しくなつてそのまんま

いつもの寺へ来て見れば

愛弟の墓の木瓜の花

ほろほろ咲いてゐたけれど

どうにもならない淋しさが

涙ぐませる眼で見れば

愛弟の墓の木瓜の花

花も震へてゐるような

(海国少年5-4所載)

少年  
新詩

## 母と兎の唄

「五月の海に浮かぶ帆は

おほ空わたる白い鳥

藤の葉陰に置く椅子は

お伽の国の骸子ろか」

浜別荘のおばしまに

鈴が鳴るくく鳴る鈴は

緋の天鷲絨の上靴の